

SHIMANE
UNIVERSITY
LIBRARY
Annual Report
2007

島根大学附属図書館年報 2007

SHIMANE
UNIVERSITY
LIBRARY
Annual Report
2007



新しい附属図書館の役割を見据えて

時代の要請に応えるべく、島根大学附属図書館は進化し続けています。資料の収集・コレクションの構築及び学習環境の提供という基幹サービスについてはもとより、高度ネットワーク社会に対応し、かつまた大学法人化を迎えて地域とのつながりを意識した新たなサービスの拡充にも積極的・自発的に取り組んでいます。

実際、これまでの業務活動に対し、外部からも注目される成果が表出するに至っています。その最たるものとして、平成19年度国立大学図書館協会賞を受賞しました。附属図書館の所蔵する貴重資料を核に、学内外専門家の協力を得て行なった企画展示、講演会・シンポジウム、成果物出版という一連の取り組みが高く評価されたものです。同企画の最終的な仕上げとして『華岡岡 医術の世界』を刊行しました。

また、世界的な潮流となっている学術機関リポジトリの整備に島根大学附属図書館も積極的に取り組み、SWANと名付けたシステムの運用を開始しました。島根大学評価情報データベースとの連携によるセルフアーカイビングは先進的な試みとして、外部からも注目されています。デジタルアーカイブ閲覧システム公開と併せ、学術研究成果ならびに貴重資料等を積極的に世界に向けて発信することに努めています。

これらに加え、教育研究活動を推し進める上で必要不可欠な電子ジャーナルの安定的提供にも配慮しました。これについては様々な意見があるのは承知していますが、今後も利用者の意見を踏まえつつ前向きに整備していくつもりです。

一方、学生の学習支援という観点からは、情報副読本『学術情報リテラシー』第2版を出版したほか、学生による選書企画・選書ツアーの実施ならびにリユース市を2007年度も開催しました。学生選書には職員がデザインしたシールを新たに添付し、その利用促進を図りました。

社会連携に関しては、医学分館が出雲市立図書館、島根県立大学短期大学部出雲キャンパス図書館と相互協力協定を締結し、新たな一頁を開きました。大森文庫展示会・関連講演会を医学分館で開催したほか、附属図書館、島根県立図書館、松江市立図書館の3館による初の合同企画展示・講演会も実現しました。

また、快適な学習空間作りが今まで以上に求められるに違いありません。医学分館では耐震・改修工事を行ない、閲覧室・視聴覚室や身障者への対応の拡充を図りました。併せて、新たに生体認証方式を導入するなど、24時間利用に見合う環境整備にも力を注いでいます。

このような最近一年間の附属図書館の活動を内外の利用者及び関係者に知っていただくために、この『島根大学附属図書館年報』を発行することにしました。皆様のご要望に応えられるように取り組んでいきますので、今後もご理解・ご支援よろしく願っています。

附属図書館長 平川 正人



contents 目次

新しい附属図書館の役割を見据えて	2
目次	3
Topics	4

図書館の動向

• 学術情報基盤整備計画	8
• 学術情報リポジトリSWANの現況	10
• 学術情報リテラシー講習会	12
• 研究開発室の活動状況	13

統計

• 基盤統計	14
• サービス統計	16

図書館日誌	18
-------------	----

年間刊行物

新聞で報道された附属図書館

組織

人事異動

島根大学 学術情報リポジトリ SWAN 誕生!!

<http://sir.lib.shimane-u.ac.jp/>



2007年(平成19年)4月、島根大学学術情報リポジトリSWAN(Shimane University Web Archives of kKnowledge)を公開した。SWANは、本学の研究教育の成果物を電子化して蓄積・保存し、国内外へ向けて無償で発信するインターネット上のデータベースである。

SWANを利用して研究成果を発信することで本学研究者は、学術雑誌投稿に加えてネットワークを利用した新たな情報発信ルートを獲得し、研究成果の可視性や認知度を飛躍的に高めることが可能となる。

同時に、島根大学の学術資産の永続的なアーカイブとして、特徴ある研究成果を広く国内外に発信することで、地域社会や産業界などに貢献し社会への説明責任を果たすことが可能となる。

【2007(平成19)年4月】

学生による 選書企画・選書ツアーを実施

学生の視点で図書館備え付けの図書を選んでもらう学生選書企画を実施した。学生に選書業務の一端に触れてもらうことで、図書館資料に興味を持ってもらうとともに、学生の要求を取り入れた図書を整備し、授業や学習で広く活用してもらうことをねらったものである。

学生選書ツアーでは、学内で参加者を募集し、市内書店へ向いて学生自身にお薦めの本などを選んでもらった。また、館内に期間限定で選書コーナーを設け、エントリーを募った。選書された図書について、内容の検討や重複チェックのための検討会を開き、最終的な購入決定まで参加してもらい、180冊の購入を決定した。

購入した図書には「学生選書」のシールを貼って区別できるようにしている。学生による選書ということで親しみを感じてもらい、読書への動機付けや図書館資料への興味に繋がれば嬉しい。

【2007(平成19)年6~7月】



「国立大学図書館協会賞」受賞!

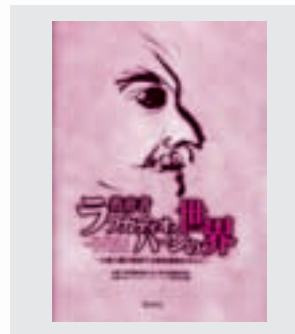
附属図書館は、平成19年度国立大学図書館協会賞を受賞した。「貴重資料展示、講演会・シンポジウム企画及び成果物編集・出版プロジェクト」での成果が評価され、受賞となったものである。

今回の受賞は、附属図書館の「絵図の世界」及び「教育者ラフカディオ・ハーンの世界」について、企画展示、講演会・シンポジウム、図書の出版といった一連の事業を、地域の研究者や出版社と連携して企画・実施したことが、全館をあげて図書館活動を活性化させているとして高く評価されたものである。

【2007(平成19)年6月】



「絵図の世界」



「教育者ラフカディオ・ハーンの世界」

第3回 図書館蔵書リユース市

図書館で不要となった図書の有効活用と図書館の書庫スペース確保を目的として、図書館蔵書リユース市を大学会館を会場に開催した。大学生協と連携して販売や運営は大学生協に委託するとともに、学生ボランティアの参加を得て実施したものである。

3回目となるこの取り組みもすっかり定着した感があり、教員、学生のほか、開催を待ちかねた市民など学外からも多数の来場があった。

図書館で重複している図書を中心に、各分野の専門書や辞書類約6,500冊を1冊100円～1,000円で販売し、約2,900冊の図書を販売した。収益は学生用図書の購入に充当する。

図書館としては、保存スペース確保のため資料の廃棄はやむを得ないところだが、資料の有効利用が図れるうえ、地域への貢献もアピールできている。

【2007(平成19)年10月】



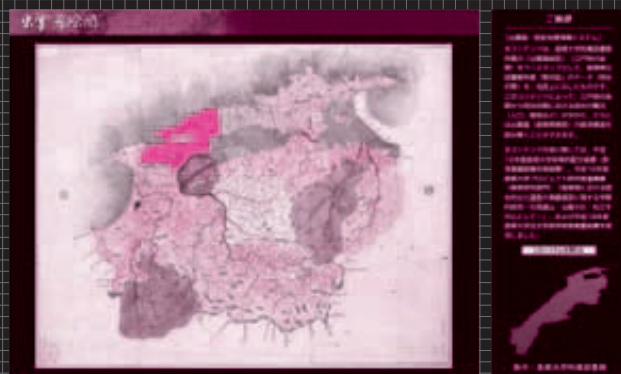
デジタル・アーカイブ閲覧システムを公開

2007(平成19)年11月、デジタル・アーカイブ閲覧システムを公開した。この閲覧システムは、デジタル化された絵図、古文書などの貴重資料を、高精細で多機能なプラズマディスプレイで利用できるようにしたもので、教育・研究での多様な利用が可能となる。

法文学部を中心として、附属図書館や学外機関が連携して開発をすすめたもので、高精細画像のデータ処理、蓄積・保存、多様な閲覧が可能なシステム群と平易な操作で利用できるタッチパネル式の大画面プラズマディスプレイで構成される。

今後、本学の研究教育プロセスの支援や、研究成果の“収蔵庫”として豊富なコンテンツを蓄積することで、授業での活用や生涯学習支援など、学内外への公開窓口として威力を発揮することが期待される。

【2007(平成19)年11月】



大森文庫展示会・ 関連講演会を実施

医学分館において、同館が所蔵する古医書コレクションである大森文庫の展示会と関連講演会を開催した。第32回島根大学医学部“くえびこ祭”協賛事業。【2007(平成19)年10月】

◆展示会

「江戸時代後期、郷土で活躍した医師
— 大森不明堂三楽・西山砂保 —」

【日時】平成19年10月12日(金)～15日(日)

【会場】看護学科棟N103演習室

◆講演会

「江戸時代の医者、と病人 — 現代の目で見て —」

【日時】平成19年10月13日(土)

【会場】看護学科棟N11番講義室

【講師】酒井シヅ(順天堂大学医学部客員教授)



医学分館の 耐震・改修工事が竣工

平成19年8月から施工していた医学分館の耐震・改修工事が12月に竣工した。今回の工事では、1・2階部分への耐震壁の設置、身体障害者の方への対応(スロープ、エレベーター、トイレの新設)、階段、3階視聴覚室、自由閲覧室等の改修を行った。また、閉館時の入館に必要な認証方法をこれまでのカード方式から静脈による生体認証方式へと変更した。

【2007(平成19)年12月】



医学分館が 出雲市立図書館、 島根県立大学短期大学部 出雲キャンパス図書館と 相互協力協定を締結

医学分館は、出雲市立図書館(市内に6図書館)および島根県立大学短期大学部出雲キャンパス図書館との間で相互協力に関する三者協定を締結した。

出雲圏域の図書館の館種を越えた相互協力協定により、地域住民が様々な資料を利用するための基盤が整ったことで、地域の教育・文化活動への貢献が期待される。

同日に開催された出雲中央図書館開館60周年記念事業では、講演会を共催で開催し、続く記念フォーラムにも附属図書館職員がパネラーとして参加した。フォーラムでは、地域の図書館の今後の発展と連携等について活発な討論が行われた。

【2007(平成19)年11月】

◆講演会

「顔で笑って、心も元気で～あなたの心にタッチ」

【日時】平成19年11月3日(土)

【会場】出雲市立出雲中央図書館 2階多目的室

【講師】藤井輝明(鳥取大学大学院医学系研究科教授)

◆記念フォーラム

「夢のある魅力的な図書館をめざして」

【日時】平成19年11月3日(土)

【会場】出雲市立出雲中央図書館 2階多目的室



出版 華岡流医術の世界 華岡青洲とその門人たちの軌跡

附属図書館医学分館では、『華岡流医術の世界—華岡青洲とその門人たちの軌跡』を発行した。医学分館が所蔵する「大森文庫」は、麻酔による乳ガン手術で著名な江戸後期の医師、華岡青洲の門人であった出雲国の医師大森泰輔が書き残した古医書のコレクション



である。本書は、これらの史料をもとに、華岡家の薬理麻酔による外科手術や医学修業の様子、当時の出雲地方における最先端の医療の実態などが紹介されている。

『華岡流医術の世界』が完成したことで、平成19年度国立大学図書館協会賞を受賞した『絵図の世界』、『教育者ラフカディオ・ハーンの世界』に続き、「～世界」シリーズの3部作が完結した。

【2008（平成20）年3月】

『学術情報リテラシー』 （第2版）を発行

実践的な情報活用能力を身に付けるための副読本『学術情報リテラシー：情報活用能力の向上のために』の第2版を刊行した。附属図書館と大学の情報部門が共同で編集したこのテキストは、「情報リテラシー」という概念を幅広い視点から捉え、パソコンやネットワークの基礎知識からアプリケーションソフトの操作方法、学術情報を探索するためのツールの活用方法にいたるまで、幅広い項目が網羅されている。冊子体に加え、図書館ホームページ上でも公開しており、日常の情報収集からレポート・論文作成まで、学生生活のあらゆる場面で活用できる1冊となっている。



【2008（平成20）年3月】

3館 合同企画

「出雲国に伝播した華岡流医術とその時代」 企画展示・講演会を開催

島根大学附属図書館、島根県立図書館および松江市立図書館の3館合同企画として、「出雲国に伝播した華岡流医術とその時代」企画展示・講演会を島根県立図書館を会場に開催した。医学分館が所蔵する古医書コレクション「大森文庫」を中心に、3館が所蔵する関連資料の展示をとおして、近世出雲国の医家と華岡流医術、地域医療の実情についての包括的な研究成果を公開したものである。松江開府400年祭の協賛事業。

【2008（平成20）年3月】

◆展示会

「出雲国に伝播した華岡流医術とその時代～大森泰輔・加善の医術と文化的素養～」

【日時】平成20年3月9日（日）～3月14日（金）

【会場】島根県立図書館 1階研究会議室



◆講演会

【演題および講師】

「出雲神話と華岡青洲」

小林祥泰（島根大学理事／医学部附属病院長）

「シーボルトと西山砂保、華岡青洲」

卜部忠治（郷土史家）

「華岡家における乳岩手術と外科手術」

梶谷光弘（出雲市立窪田小学校長／医学史・大森文庫研究者）

「文化人としての大森泰輔 一人間愛をといた心学者一」

田中則雄（島根大学法文学部教授）

【日時】平成20年3月9日（日）13時～17時

【会場】島根県立図書館 1階集会室

学術情報基盤整備計画

大学における教育研究活動に不可欠な学術情報基盤（コンピュータ、ネットワーク、学術図書・学術雑誌等）は、近年の高度情報化社会の中でますます高度化・多様化しており、教育研究様態にも著しい変容を生じさせている。特に外国雑誌については印刷媒体から電子ジャーナルと呼ばれるデジタル媒体への移行が急速に進行しており、ネットワーク規格の高速・大容量化に伴いPDFファイル等による雑誌本文の直接利用が可能となったことから、契約態様や利用方法が大きく変化してきている。附属図書館は、緊縮財政の中で、電子ジャーナルに代表される学術情報資源を安定的にサービスするために、第三期学術情報基盤整備計画を策定した。

1. 電子ジャーナルを巡る昨今の状況

学術雑誌は、世界的にシリアルズ・クライシス (Serials Crisis) と呼ばれる異常な価格高騰が継続的に進行しており、利用の現場では契約タイトル数の減少が顕在化していた。1998 (平成10) 年頃から大手出版社等により、冊子体購読費に一定の電子価格を上乗せしたモデルによる電子ジャーナルの一括販売が開始され、出版社毎の購読規模維持を条件に全タイトルの利用や電子オンリーモデルなどへと変化してきた。国内では国立大学図書館協会の電子ジャーナルタスクフォースによる出版社との協議や、平成14年の文部科学省による電子ジャーナル導入経費配分等を契機として、現在では多くの大学で、出版社系列のパッケージ契約を中心に数千タイトルの電子ジャーナルが提供されている。

2. 電子ジャーナルのメリット

電子ジャーナルは、学内であれば利用する上で場所の制約を受けないため、異なるキャンパスからでも直接利用できるメリットは大きい。また、データベース等と連携して効率的・迅速に学術情報が利用できるなど、次のような多くのメリットがある。

【電子ジャーナルのメリット】

- サイトライセンス契約によりキャンパス内から24時間の同時利用が可能 (共有性)
- 検索から論文入手まで容易な操作で迅速・スムーズな利用ができる (リンク機能)
- 最新号及び出版前情報、バックファイルなど広範囲の利用が可能 (速報性、網羅性)
- 多様な検索機能、データベースと連動した利用が可能 (ジャーナル利用の高度化)
- 複数出版社契約により、専門分野及び周辺領域の網羅的利用が可能 (利用範囲の拡大)
- 参照、引用関係を辿り関連論文まで閲覧できる (参照・引用情報リンク) など

3. 島根大学における電子ジャーナルの導入経緯

○初期

1997 (平成9) 年度から学長裁量経費などにより、教育研究活動のインフラ整備の一環として、EBSCO社のAcademic Abstract、Business Source Plus、Humanities Source、Social Science Sourceなど約600誌の電子ジャーナルをCD-ROMサーバーから試験提供し、有効性を検証した。

○第一期学術情報基盤整備計画

(2001-2003 (平成13-15) 年)

〈松江キャンパス〉 松江キャンパスでは、Academic Press、Elsevier Science、Blackwell、Cambridge University Press、

Oxford University Press、Springer、Wiley、JSTOR、ProQuest: Academic Research Libraryなど5,900誌の電子ジャーナルと、Current ContentsやSwetsScanなどのデータベースを学術情報基盤整備費等で導入し、リンク機能による多様な電子ジャーナルの利用体制を構築した。同時に、ローカルサーバーにデータをロードして使用する形態から、出版社サーバにアクセスして直接利用するサイト契約に移行した。

〈出雲キャンパス〉 出雲キャンパス (旧島根医科大学) では、2002 (平成14) 年4月から、Elsevier Science、Springer、Wiley、Blackwell、ProQuest: Medical Library、Oxford University Pressなど医学系雑誌を中心に約2,000誌を整備した。

○第二期学術情報基盤整備計画

(2004-2005 (平成16-17) 年)

2003 (平成15) 年10月の島根大学、島根医科大学の統合による両大学の購読雑誌再編を経て、Elsevier、Blackwell、Springer、Wiley、Kluwer、Cambridge、ProQuest: ML/ARL、Gale、JSTORなど両キャンパスで共通性の高い電子ジャーナル12系列、約7,500タイトルの電子ジャーナルを整備した。

4. 第三期学術情報基盤整備計画

(2007-2009 (平成19-21) 年)

緊縮財政下で値上がりが続く外国雑誌 (電子ジャーナル) の購読維持の方策について検討するために、附属図書館に「電子ジャーナル等整備検討専門委員会」を設置し、購読維持の工夫、共通経費化への課題、利用統計調査、価格・契約条件の改善などを検討するとともに、国立大学図書館協会電子ジャーナルタスクフォースの交渉成果や他大学の購読状況などをもとに、以下の骨子からなる第三期整備計画を策定し、了承を得た。

- ① 人文・社会系、生命科学系、理工学および生物科学系など多様な専門分野を有する島根大学では、電子ジャーナルについてもバランスのとれたコレクション整備を行う。
- ② タイトル構成の見直しを行い、利用が多い主要出版社のパッケージ11系列、約6,900誌を維持する。
- ③ 経費面では、負担率の変更 (共通経費76%→80%、部局経費24%→20%) による部局負担の軽減や、冊子体の中止により電子ジャーナル整備に経費を集約する。
- ④ 最新の学術情報の網羅的な収集や研究動向の調査・評価に有用な引用文献データベース、契約電子ジャーナルを利活用するためのアクセス・ツール類を整備する。

5. 電子ジャーナル利用システム

電子ジャーナルを効率的に利用するために、電子ジャーナル利用システムを構築し、提供している。このシステムは、アクセス・ツール類と各種データベースを組み合わせる構成し、膨大な電子ジャーナルを集約し、効率的に利用できるようにしたものである。

【電子ジャーナル利用システム】

学術情報基盤整備計画や部局購読の契約電子ジャーナル、国内外のフリージャーナルなど、島根大学から利用できる約13,000タイトルを、図書館ホームページから平易に利用できるシステムで、次の3種類のメニューにより多様な機能を提供している。

■e-Journals Access Page

島根大学で利用できる電子ジャーナルを網羅的に収録し、誌名レベルから必要な論文へ誘導する。冊子雑誌のように「誌名-巻-号-目次-抄録-本文」と階層的な表示ができる。

■Shimane LINKS

データベースの検索結果から、学内の論文利用情報を表示し、リンク機能により直接論文本文へ誘導する。契約外の論文については、論文情報を利用して文献複写依頼画面へ誘導する。

■統合検索システム

複数の情報源を統合的・横断的に検索し、検索結果からShimane LINKSへ誘導する。

6.島根大学の電子ジャーナル分野別概数

e-Journals Access Pageをととして利用できる電子ジャーナルの分野別の概数を示すと図1のとおりである。外国雑誌では、学術情報基盤整備による出版社系6,900誌、学部・講座等の購入分370誌、フリージャーナルが利用でき、国内雑誌では、国立情報学研究所のCiNii、メディカル・オンライン、科学技術情報機構のJ-STAGE、Journal@rchive等に収録・リンクされた約5,800誌が利用できる。

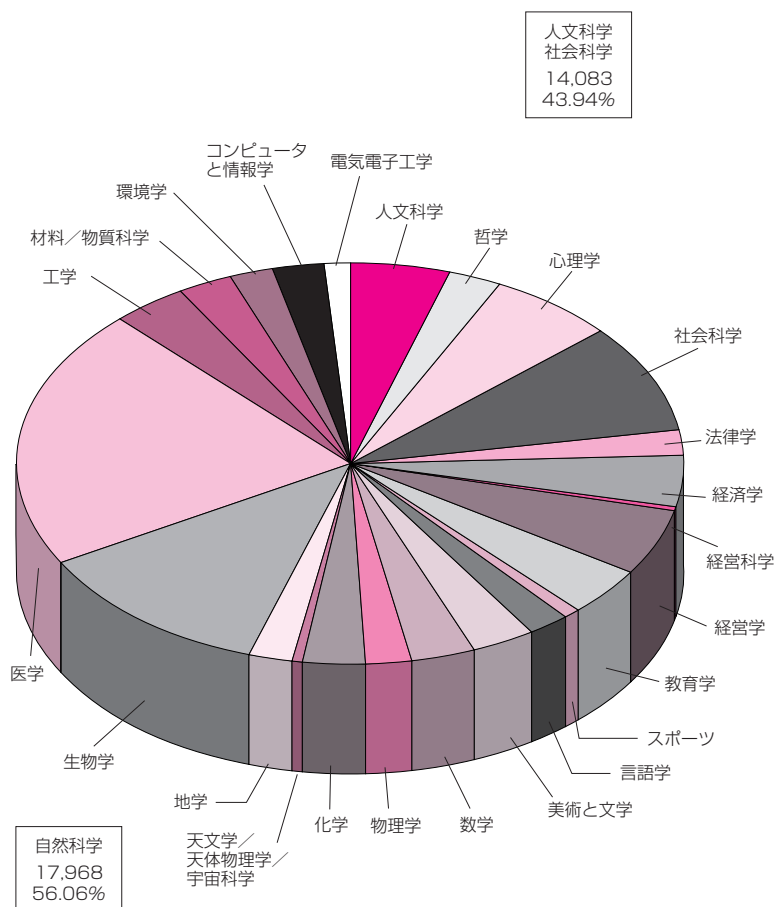


図1 電子ジャーナルの分野別概数

(収録総数32,051誌(URL件数)/純タイトル13,100誌、2008.1月現在)

分野 (Subject)	Titles	比率 (%)
人文科学	1,541	4.81%
哲学	823	2.57%
心理学	1,962	6.12%
社会科学	2,819	8.80%
法律学	655	2.04%
経済学	1,319	4.12%
経営科学	102	0.32%
経営学	1,709	5.33%
教育学	1,255	3.92%
スポーツ	260	0.81%
言語学	647	2.02%
美術と文学	991	3.09%
数学	997	3.11%
物理学	714	2.23%
化学	972	3.03%
天文学/天体物理学/宇宙科学	160	0.50%
地学	678	2.12%
生物学	3,799	11.85%
医学	6,741	21.03%
工学	1,171	3.65%
材料/物質科学	850	2.65%
環境学	675	2.11%
コンピュータと情報学	800	2.50%
電気電子工学	411	1.28%
Total	32,051	100%

学術情報リポジトリ SWANの現況

2007(平成19)年4月、附属図書館は、島根大学学術情報リポジトリSWANを公開した。SWANは、本学の研究者が作成した論文等の研究成果物を学内外に向けて無料で発信するデータベースである。

学術雑誌価格の高騰による学術コミュニケーションの不全に対する危機感を背景にして、世界的に学術機関リポジトリ(以下「リポジトリ」という。)を設置する動きが広まりつつある中で、本学のSWANは、本学の研究成果を世界に向けて発信するとともに、研究成果物の永続的なアーカイブとしての役割を果たすために動き始めた。

1. 導入の経緯

2006(平成18)年度に、国立情報学研究所の次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業(CSI事業)の委託を受けて、リポジトリシステムの構築及び運用指針の策定に取り組んだ。システム構築にあたっては、先行して稼働していた大学評価情報データベース(以下「評価データベース」という。)との連携を企図して設計された。2007(平成19)年度も引き続きCSI事業の委託を受けて、システムの改修とコンテンツの収集に取り組んだ。

2. SWANの特徴

○評価データベースとの双方向の連携

SWANは、評価データベースと双方向に連携したシステムである点に最大の特徴がある。評価データベースと連携することにより、

評価データベースへの教員業績データの入力と連動してSWANへの登録ができるため、コンテンツの効率的な収集への道を開いた。(図1参照)

また、SWANに登録された研究業績のメタデータを、評価データベースの教員業績データに流用する流れも用意した。SWANの登録時には、リンクリゾルバ(Shimane LINKS)を介して文献データベースから論文の書誌データを取得できるため、標準的で品質の高いメタデータの登録を可能とするとともに、入力負荷の軽減を図っている。(図2参照)

このように、SWANと評価データベースを双方向に連携させることにより、教員業績データの登録およびSWANへのコンテンツ登録に対する教員の様々な要求に対し、効率的で負荷のかからない作業環境を提供している。

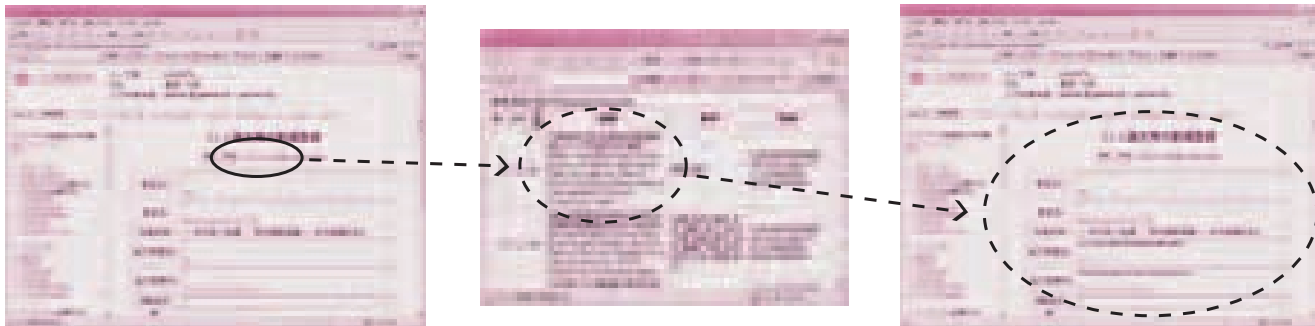


図1 大学評価情報データベースとの連携1 ★SWAN → 教員業績情報へ

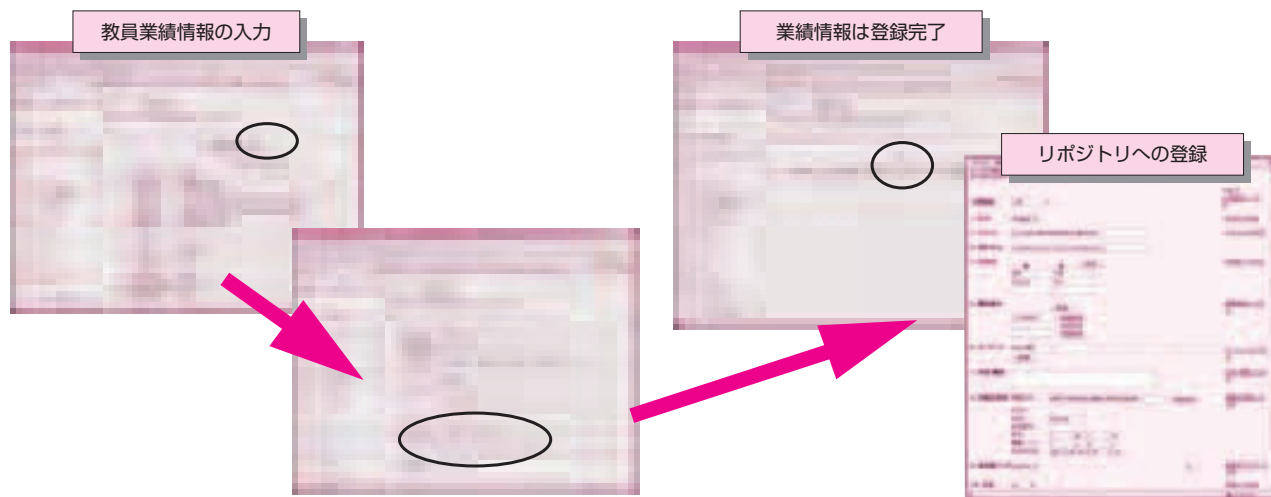


図2 大学評価情報データベースとの連携2 ★教員業績情報 → SWANへ

○入力支援ツール群

SWANIには、登録者の入力負担を軽減するための様々な入力支援ツールが用意されていることも特徴の一つである。上記のリンクリポルバ(Shimane LINKS)を介した文献データベースからの書誌データの取り込み機能もその一つである。

その他に、掲載誌名を参照し、正確な誌名情報を取り込むための誌名参照機能がある。この誌名参照には、雑誌ごとにリポトリへの掲載許諾情報を参照できるようにしている。

また、学内の著者については、著者名典拠データベースを作成し、著者名の統一された形を取り込めるようにするとともに、教員業績情報との正確なリンク付けを可能としている。

3. 現況

SWANの2007年度1年間の運用状況は次のとおりである。

○コンテンツの登録状況

表1に、コンテンツの登録状況を示す。公開されている件数は4,339件、準備中の件数が996件である。公開されているコンテンツの約99%にあたる4,277件が本学の研究紀要全文データベースから構築した紀要論文である。

学内紀要論文以外の公開されているコンテンツは62件であり、その種別ごとの割合は、会議資料39%、学術論文35%、会議発表資料16%と、過半数を会議関連の資料が占めている。

また、準備中データの約半数の433件が学術雑誌掲載論文であり、残る563件が会議資料その他のコンテンツ種別である。準備中のデータをさらにジャーナルカラー(許諾状況。表2参照)別に見ると、公開可能なカラー(green, blue)の雑誌に投稿された論文86件は、著者最終稿がないなどの理由で公開できないでいるもの、残る347件は、公開不可か許諾が必要な雑誌(white, gray)に投稿された論文、またはSWANが登録対象としていない査読前の論文のみ許諾する雑誌(yellow)に投稿された論文である。学術雑誌論文以外の準備中データ563件については、リポトリからの公開が不可の条件のものである。

以上のことから、今後公開件数を上げるためには、著者最終稿を残すことへの教員の理解を得ることが重要であると言える。また、本学教員の投稿(発表)先の許諾状況(表1)から、投稿(発表)先がリポトリへの登録を認めていないケースが多いことが、コンテンツ本文の公開につながっていない状況が見て取れる。このため、今後は、学術雑誌や学会発表等において、リポトリへの投稿を認める状況が熟していくことが求められる。

○登録者の状況

表3は、学内紀要論文を除くコンテンツ種別のSWANへの登録状況を登録者の所属別に示したものである。コンテンツ本文のPDFファイルを登録した教員は35人(5%)、メタデータのみ登録した教員が265名(39%)である。メタデータ、コンテンツ本文のいずれかを登録した教員は293名で全体の43%である。即ち半数近くの教員が、SWANから研究成果の発信を意図していることがわかり、今後はメタデータもコンテンツ本文も登録しなかった教員をターゲットにしたプロモーション活動によって登録率の向上を図る必要がある。

学部別の傾向を見ると、メタデータのみ登録した教員数では、人文・社会科学系部局よりも自然科学系部局が高い数値を示す傾向にある。特に医学系部局の数値は高い。コンテンツ全文を登録した教員数では、医学系を除く自然科学系部局の数値が高い。投稿先の許諾状況に左右されていると考えられるが、医学系部局のコンテンツ本文登録数がメタデータの登録数の高さに反して極端に低い数値となる原因については調査をしてみる必要がある。

表1 コンテンツの登録状況

状態	件数	コンテンツ種別	カラー	種別毎の件数
公開中	4,339	学内紀要論文		4,277
		学術論文		22
		技術論文		3
		学位論文		1
		会議資料		24
		発表資料		10
		雑誌記事		1
		単行本		1
準備中	996	学術雑誌論文	green	80
			blue	6
			yellow	33
			white	19
			gray	295
		学術雑誌論文以外	gray(学術雑誌論文以外)	563
合計	5,335			

表2 ジャーナルカラー(許諾状況)

green	査読前・査読後の論文のアーカイブを認める
blue	査読後の論文のアーカイブを認める
yellow	査読前の論文のアーカイブを認める
white	リポトリへのアーカイブを認めていない
gray	検討中・調査中・その他

表3 登録者の内訳

学部	①メタデータのみ登録した教員数		②コンテンツ本文を登録した教員数		③メタまたはコンテンツ本文を登録した教員数		④全体数
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
法文学部	19	28%	3	4%	22	32%	68
教育学部	9	10%	2	2%	12	14%	86
医学部	97	60%	1	1%	98	60%	162
病院	55	52%	0	0%	55	52%	106
総合理工学部	35	29%	14	12%	47	39%	121
生物資源学部	38	44%	10	11%	42	48%	87
その他	12	23%	5	10%	17	33%	52
合計	265	39%	35	5%	293	43%	682

学術情報リテラシー講習会

附属図書館では、学習や研究を行う上で必要となる学術情報を活用する能力(学術情報リテラシー)の育成を支援するために、次のような各種の講習会を開催している。2007(平成19)年度は、利用者のニーズやレベルに合わせて講習会をアレンジするオンデマンド講習会に重点を置いて開催した。

1. 図書館主催講習会

図書館で日程と内容を設定して行うもので、新入生向けの図書館ツアーから外部講師を招いての特定データベース講習会まで幅広い内容で実施している。外部講師に依頼する他は、図書館職員が講師を務める。

2. オンデマンド講習会

利用者からの要望に応じて日程、内容を調整して行うもので、図書館職員が講師を務める。教員からの申込により、授業の一環として行われるもののほか、学生や職員のグループ単位でも実施する。

3. 傾向と今後の課題

〈松江キャンパス(本館)〉

2006(平成18)年度から実施しているオンデマンド講習会は、2007(平成19)年度には、回数、受講者数ともに飛躍的な伸びを示し、教員の間に定着しつつあると言える。一方で、講習会を担当する職員の業務量が増大し、すべての要望に応えきれなくなる事態も予想される。利用者の受講機会を増やしつつ、より利用者のニーズに沿った内容の講習会が実施できるよう、図書館主催の定期講習会、オンデマンド講習会を含めて講習会の実施方法の検討が必要な時期に来ている。

〈出雲キャンパス(医学分館)〉

図書館主催の講習会を中心として学術情報リテラシー教育を展開している。下記の実績に掲げるもののほか、学務課主催の新入生オリエンテーション(4月)およびオープンキャンパス(8月)にて、図書館職員が出向いて図書館の概要説明等も行っている。

〈ポータルサイトの整備〉

2007(平成19)年度に図書館ホームページのリニューアルを進め、学術情報へのアクセス性を高めたポータルサイト(Academic Resource Bank)を構築した。今後は、このポータルの機能性を高めるとともに、オンラインチュートリアルの整備を進め、利用者が自学自習できる環境も提供する必要がある。

4. 平成19(2007)年度実績

〈参加者内訳〉

	松江キャンパス(本館)	出雲キャンパス(医学分館)	合計	
学 生	図書館主催	23	5	28
	オンデマンド	597	266	863
	小 計	620	271	891
院 生	図書館主催	4	2	6
	オンデマンド	7	2	9
	小 計	11	4	15
教職員	図書館主催	80	59	139
	オンデマンド	32	0	32
	小 計	112	59	171
講習会種別 毎の集計	図書館主催	107	66	173
	オンデマンド	636	268	904
	総 計	743	334	1,077

〈図書館主催講習会一覧〉

松 江 キ ャ ン パ ス			
開催日	内 容	対 象	回数・人数
4/17~ 5/15	図書館ツアー	新入生	4回9名
4/18	OPAC	新入生	1回3名
5/9	学術情報基盤整備計画、図書購入依頼、DB・EJ概要、My Library・ILL、リテラシー講習会、リポジトリ	新任教員	1回8名
6/6	現行法規	教職員、 図書館職員	1回7名
6/13	LexisNexis	教職員、 図書館職員	1回6名
6/27	SCOPUS	図書館職員	1回15名
7/4	日経テレコン21	学生、教職員、 図書館職員	1回13名
9/28	Web of Science	教員、図書館職員	1回24名
12/19	「日経テレコン21」の記事検索・企業検索・人事検索	学生・教職員 図書館職員	1回2名
2/28	Google Scholar、Google Bookほか	学生・教職員 図書館職員	1回20名
松江キャンパス 計			13回 107名
出 雲 キ ャ ン パ ス			
開催日	内 容	対 象	回数・人数
5/9	卒業研究を控えた学生に、図書館を利用した効率的な文献収集の紹介。	看護学科4年	1回3名
9/27	Web of Science、End Note Web	学生・院生・ 教職員	1回18名
2/4	図書館の利用案内、使い方、利用証の発行	学生・院生・ 教職員	1回27名
2/21	CINAHL (EBSCO版) と DynaMedの利用方法	学生・院生・ 教職員	1回10名
2/26 ~28	各種電子ジャーナルの利用方法	学生・院生・ 教職員	3回8名
出雲キャンパス 計			7回 66名
総 計			20回 173名

〈オンデマンド講習会一覧〉

松 江 キ ャ ン パ ス			
開催日	内 容	対 象	回数・人数
4/18~ 5/23	図書館概要説明、HP、OPAC、館内ツアー	法文学部1回 生(授業)	4回 105名
4/19 ・26	図書館概要説明、HP、OPAC、館内ツアー	総合理工学部 1回生(授業)	2回88名
4/26	HP、OPAC、館内ツアー	生物資源科学 部2~4回生 (授業)	2回37名
5/8	朝日新聞「聞蔵」、日経テレコン21	法文学部4回 生	1回1名
5/8	CiNii	法文学部4回 生	1回3名
5/17	CiNii、新聞記事DB、Japan Knowledge、OPAC、MLA	法文学部2~ 4回生(授業)	1回7名
5/24	SCOPUS、CCC	法文学部	1回1名
6/1	CiNii、SCOPUS、ProQuest、CCC、新聞記事DB、Japan Knowledge、OPAC	法文学部4回 生(授業)	1回6名

松江キャンパス			
開催日	内 容	対 象	回数・人数
6/28	CiNii, JDreamII, SCOPUS, CCC, Web of Science, MyLibrary	総合理工学部	1回6名
6/28	図書館概要説明、HP、OPAC、館内ツアー	教育学部1回生(授業)	1回34名
7/5 ~19	図書館概要説明、HP、OPAC、館内ツアー	法文学部1回生(授業)	3回86名
7/11	CiNii, SCOPUS	法文学部4回生・聴講生	1回2名
7/18 ・24	CiNii, Shimane LINKS, OPAC, MyLibrary, 学外文献複写依頼	法文学部3回生	2回13名
8/8	CiNii, Shimane LINKS, OPAC, MyLibrary, 学外文献複写依頼、日経テレコン21、朝日新聞「聞蔵」、JSTOR、ProQuest	法文学部4回生(ゼミ)	1回8名
10/3・11/6	CiNii, Web of Science	法文学部3回生	2回6名
10/11	CiNii, JDream II, Web of Science, 新聞記事DB	法文学部3回生(ゼミ)	1回12名
10/12	図書館概要説明、HP、OPAC、館内ツアー	法文学部1~4回生(ゼミ)	1回71名
10/15	OPAC, CiNii, Shimane LINKS, MyLibrary, 学外文献複写依頼	法文学部3回生・院生(ゼミ)	1回6名
10/16	館内ツアー	総合理工学部1回生(授業)	3回87名
10/17 ・19	Web of Science, MLA, 英文新聞記事DB	法文学部3回生・院生(ゼミ)	2回16名

松江キャンパス			
開催日	内 容	対 象	回数・人数
10/25	図書館概要説明、OPAC、Webcat Plus, CiNii, 館内ツアー	生物資源教育研究センター(演習林)技官	1回2名
10/30	CiNii, JDream II, PsycINFO, Web of Science, MyLibrary, 学外文献複写依頼	教育学研究科心理選考修士・研究生	1回4名
11/8	SCOPUS, Web of Science, AGLICOLA, 電子ジャーナル	生物資源教育研究センター(演習林)技官	1回2名
12/3	OPAC, Webcat, Webcat Plus, NDL-OPAC, 島根県内図書館横断検索, OPAC	教育学部3回生(ゼミ)	1回4名
12/3	PubMed, SCOPUS, Web of Science, JDream II, 電子ジャーナル	生物資源科学部3回生(授業)	1回29名
松江キャンパス 計			37回 636名
出雲キャンパス			
開催日	内 容	対 象	回数・人数
4/11 ~19	医中誌Web, CINAHL, PubMed, 電子ジャーナル, OPAC, 学外文献依頼	看護学科3年(授業)	9回69名
5/1	CiNii, 医中誌Web, Google Scholar, CINAHL, PsycINFO, PubMedなど	看護院生	1回2名
5/16 ・23	医中誌Web, OPAC, My Library, 館内ツアー	看護学科2年(授業)	2回146名
10~12月	医中誌Web, PubMed, 電子ジャーナル, OPAC, My Library, 学外文献依頼	医学科3年(授業)	13回51名
出雲キャンパス 計			25回 268名
総 計			62回 904名

研究開発室の活動状況

附属図書館の業務やサービスに関して、専門的な立場から研究開発を行い、図書館サービスの向上に寄与する目的で、2006(平成18)年12月に研究開発室が設置された。4つの専門部会が設置され、室員の教員の指導のもと、2007(平成19)年度は次のような研究開発事業を進めた。

1. 専門部会の活動

○歴史・地理系専門部会

附属図書館が所蔵する未整理文書の目録作成(石見銀山関係資料)や電子化(宗門帳・五人組帳)を進めた他、地域の個人または機関が所蔵する次のような文書等の目録作成や電子化を進めた。

- ・安立家(松江市)所蔵絵図
- ・隠岐の島町教育委員会所蔵「池田家(大仲)文書」ほか

○国書・文学書専門部会

附属図書館が所蔵する貴重書(桑原文庫等)の電子化を進めるとともに、地域の個人や機関が所蔵する貴重資料の電子化を行った。

- ・河本家(鳥取県東伯郡)所蔵和古書
- ・出雲市立大社図書館所蔵和古書

○ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)専門部会

八雲文庫室資料の購入・整備を進めるとともに、ラフカディオ・ハーンデータベースの再構築についての検討を進めた。また、平成20年度に計画しているラフカディオ・ハーンに関する企画展示(松江市立図書館・島根県立図書館・島根大学附属図書館3館合同企画)のための準備として各種調査を行った。

○古医書及び大森文庫専門部会

大森文庫資料の電子化作業を進めた他、3年目となる次のような展示会・講演会を開催した。

- ・企画展示「江戸時代後期、郷土で活躍した医師—大森不明堂三楽・西山砂保」
- ・講演会「江戸時代の医者、と病人—現代の目で見て」(順天堂大学酒井シヅ客員教授)

また、大森文庫資料の研究成果をもとに、『華岡流医術の世界:華

岡青洲とその門人たちの軌跡』を出版した。

2. デジタルアーカイブの構築

研究開発事業の一環として、教育・研究利用を目的としたデジタルアーカイブシステムの構築に取り組んだ。附属図書館所蔵資料をはじめ、地域の個人や機関が所蔵する資料の電子化を進め、資料の所蔵者と利用条件等について覚書を取り交わした上でデジタルアーカイブに搭載している。単に公開目的としてだけでなく、研究目的としての利用を可能とするために、資料によっては、利用者の属性に応じてアクセス制限を設定できるようにしている。このようにすることで、調査中の文書資料など一般には公開できないものもアーカイブに搭載し、調査や共同研究等に利用可能となっている。

室員名簿(2006—2007(平成18—19)年度)

○歴史・地理系専門部会

教育学部教授	◎相良英輔	法文学部教授	竹永三男
法文学部准教授	船杉力修	法文学部准教授	小林准士
島根大学名誉教授	松尾 寿		

○国書・文学書専門部会

法文学部教授	◎蘆田耕一	法文学部教授	田中則雄
法文学部教授	下房俊一		

○ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)専門部会

教育学部教授	◎高瀬彰典	法文学部准教授	長岡真吾
島根大学名誉教授	常松正雄		

○古医書及び大森文庫専門部会

医学分館長	◎高島利一	医学部附属病院長	小林祥泰
医学部教授	小林裕太	法文学部教授	蘆田耕一
法文学部教授	田中則雄		

(◎は専門部会の責任者)

基盤統計

図書 Books

蔵書冊数 Holdings

2008(平成20)年3月31日現在

	本館	医学分館	合計
和漢書	605,818	61,693	667,511
洋書	150,380	55,256	205,636
合計	756,198	116,949	873,147

分野別蔵書冊数 Holdings by Classifications

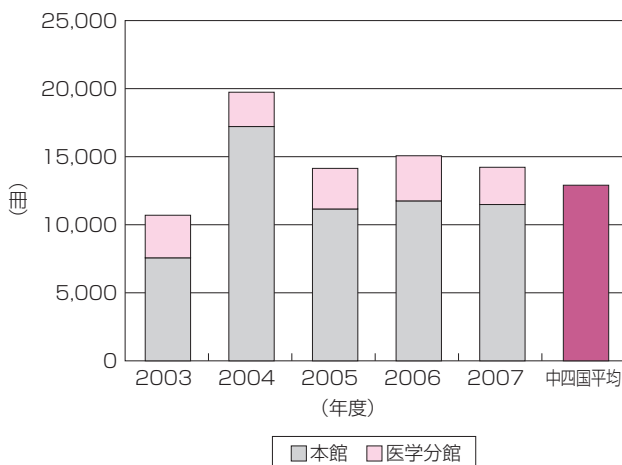
2008(平成20)年3月31日現在

	本館			医学分館	合計
	和漢書	洋書	計	計	
000 総記	56,693	10,346	67,039	1,648	68,687
100 哲学	37,973	11,370	49,343	1,559	50,902
200 歴史	56,587	7,730	64,317	1,038	65,355
300 社会科学	198,201	33,537	231,738	4,160	235,898
400 自然科学	64,881	38,726	103,607	3,481	107,088
500 技術・工学	31,644	5,010	36,654	520	37,174
600 産業	41,031	5,973	47,004	250	47,254
700 芸術	29,027	5,598	34,625	895	35,520
800 語学	23,866	10,906	34,772	2,162	36,934
900 文学	65,915	21,184	87,099	4,501	91,600
医学専門	0	0	0	96,735	96,735
合計	605,818	150,380	756,198	116,949	873,147

受入冊数 Volumes Added

本館		2003(H15)	2004(H16)	2005(H17)	2006(H18)	2007(H19)
和漢書	購入	5,051	6,118	8,239	8,231	6,940
	寄贈・その他	377	5,206	1,643	2,598	3,495
	計	5,428	11,324	9,882	10,829	10,435
洋書	購入	818	517	857	550	518
	寄贈・その他	1,323	5,374	420	373	533
	計	2,141	5,891	1,277	923	1,051
本館計		7,569	17,215	11,159	11,752	11,486
医学分館						
和漢書	購入	1,501	1,220	1,659	1,660	1,490
	寄贈・その他	278	76	151	667	509
	計	1,779	1,296	1,810	2,327	1,999
洋書	購入	1,317	1,190	1,162	956	669
	寄贈・その他	33	36	10	34	68
	計	1,350	1,226	1,172	990	737
医学分館計		3,129	2,522	2,982	3,317	2,736
合計		10,698	19,737	14,141	15,069	14,222

図書受入冊数の推移



・ 学生用図書の整備は重要な課題である。2006(平成18)年度より学生用図書費が共通経費として確保されたため整備を進めることができたが、2007(平成19)年度は電子ジャーナル経費の一部を負担したことにより影響を受け、若干減少した。2004(平成16)年度の増加は、法人化により資産見直しを行ったための一時的なものである。

※中四国平均は、『日本の図書館 2007』(日本図書館協会 2008.1発行。2006(平成18)年度の統計データ)に掲載の中四国地区国立大学の内、島根大学と同規模校(学部数2~7学部)の7校(島根、鳥取、山口、徳島、愛媛、香川、高知の各大学)の平均値。以下、「電子ジャーナル契約タイトル数の推移」のグラフを除き、同じ。「電子ジャーナル契約タイトル数の推移」の中四国平均値は、別途調査による2008(平成20)年度の数値である。

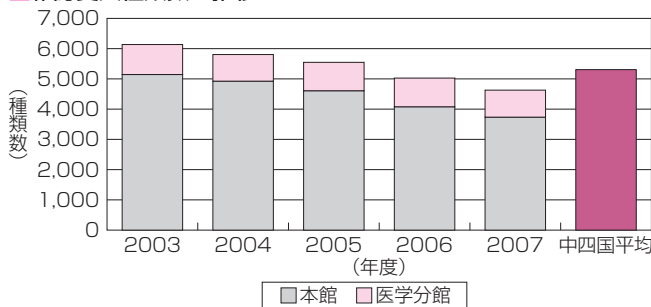
雑誌 Periodicals

■所蔵種類数 Holding Titles

2008(平成20)年
3月31日現在

	本館	医学分館	合計
和雑誌	8,735	2,216	10,951
洋雑誌	2,931	1,710	4,641
合計	11,666	3,926	15,592

■雑誌受入種類数の推移



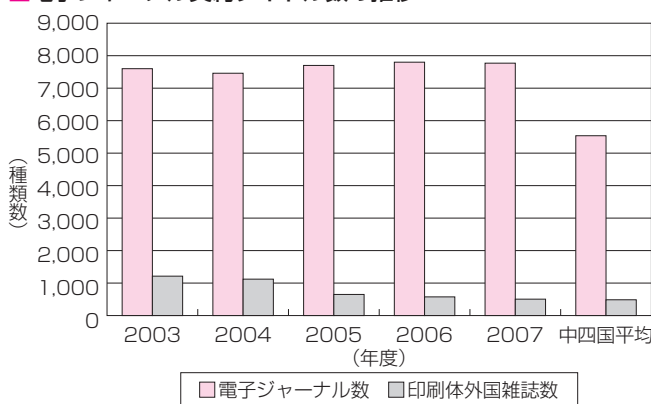
雑誌の受入種類数は減少の傾向にある。理由として、冊子体洋雑誌の購入を中止し電子ジャーナルへの切り替えを進めたこと、配架スペースの不足のため、寄贈雑誌を選択的に受け入れるようになったことがあげられる。なお、和雑誌は学生の利用が多いため、学生用資料費の中で見直しを行いながらタイトル数を維持している。

電子ジャーナル Electronic Journals

■契約タイトル数 Licensed E-Journals

	2003(H15)	2004(H16)	2005(H17)	2006(H18)	2007(H19)
電子ジャーナル数	7,600	7,460	7,700	7,800	7,770
印刷体外国雑誌数	1,213	1,121	650	575	505

■電子ジャーナル契約タイトル数の推移



中国四国地区国立大学法人の契約電子ジャーナル数は、共通経費等の措置により大規模出版社のパッケージを中心に各大学とも、4,000~5,000タイトルを整備している。
冊子体の外国雑誌は、電子ジャーナルでカバーされるものから順次購読中止となり、タイトル数はここ数年で半減している。
外国雑誌の値上がりや講座・研究室財政の逼迫からパッケージに含まれない冊子体のタイトルの中止が進行しており、利用可能なタイトル総数は出版社系を中心に増加したが、各専門分野毎に重要なコアジャーナル等の体系的整備が課題となっている。

図書館資料費 Expenditures for Library Materials

■学生用図書・雑誌・電子ジャーナル等

Books, Periodicals, Electronic Resources (千円)

		2004(H16)	2005(H17)	2006(H18)	2007(H19)
本館	学生用図書	13,498	11,007	18,427	14,745
	雑誌	15,857	9,582	8,323	8,895
	計	29,355	20,589	26,750	23,640
医学分館	学生用図書	4,703	5,069	6,608	5,128
	雑誌	38,408	17,869	16,580	16,489
	計	43,111	22,938	23,188	21,617
電子ジャーナル		14,182	67,441	66,962	71,146
データベース		15,045	14,220	13,717	12,951
合計		101,693	125,188	130,617	129,354

※法人化(2004(平成16)年度)以降について記載

2005(平成17)年度より電子ジャーナルを電子ベース契約に切り替えたため、資料費の中に占める割合が増大している。2006(平成18)年度より学生用図書費が共通経費として確保されたが、電子ジャーナルやデータベースは高騰を続けており、今後資料費の増額が望めない中、バランスのとれた資料整備を行って行く必要がある。

■受入種類数 Received Titles

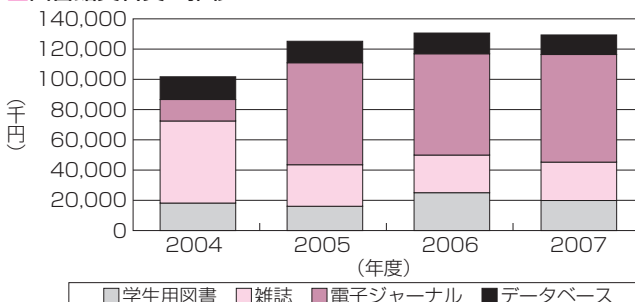
		2003(H15)	2004(H16)	2005(H17)	2006(H18)	2007(H19)
和雑誌	購入	922	673	670	626	665
	寄贈・その他	3,197	3,280	3,346	2,972	2,578
	計	4,119	3,953	4,016	3,598	3,243
洋雑誌	購入	924	868	467	368	361
	寄贈・その他	101	104	125	112	131
	計	1,025	972	592	480	492
本館計		5,144	4,925	4,608	4,078	3,735
医学分館						
和雑誌	購入	213	204	206	218	202
	寄贈・その他	377	319	469	446	472
	計	590	523	675	664	674
洋雑誌	購入	289	253	183	207	144
	寄贈・その他	113	104	81	78	75
	計	402	357	264	285	219
医学分館計		992	880	939	949	893
合計		6,136	5,805	5,547	5,027	4,628

■主要パッケージ契約タイトル数

Licensed Major E-Journal Packages 2007(平成19)年度

		出版社等	タイトル数
学術基盤経費による契約		Blackwell : Synergy	753
		Cambridge Online Package	154
		Elsevier : ScienceDirect	1,800
		JSTOR : Arts / General Sciences	195
		Nature & Research誌	11
		Oxford Online Package	170
		ProNAS	1
		ProQuest : Academic Research Library / Medical Library	2,250
		Science	1
		SpringerLINK	1,200
		Wiley InterScience	330
		計	6,865
	部局経費等による契約		American Chemical Society (ACS)
		American Mathematical Society (AMS)	9
		American Physical Society (APS)	7
		British Medical Journal	28
		IEEE : CSDL	23
		Karger	75
		Lippincott Williams and Wilkins (LWW)	100
		Medical Online	500
		PsycARTICLES	50
		Thieme	33
		UniBio	6
		計	855
合計			7,720

■図書館資料費の推移



サービス統計

利用 In-Library Use

■開館日数 Opened Days

	本館	医学分館
平日	225	236
土・日・祝日	66	112
合計	291	348

■利用対象者数 Staff & Students 2008(平成20)年5月1日現在

	本館	医学分館	合計
教職員	2,262		2,262
学生	5,251	1,049	6,300
学外者	255	78	333
合計			8,895

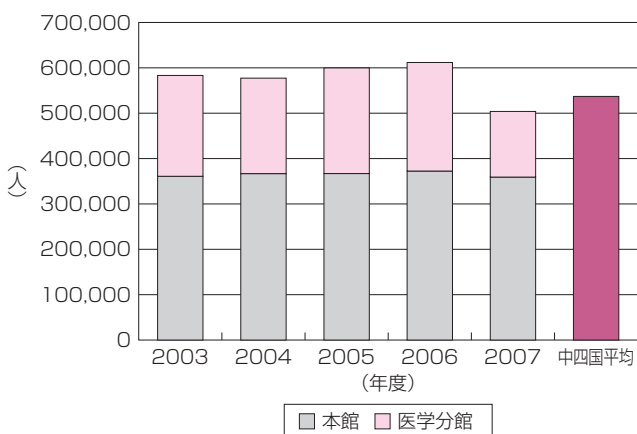
■入館者数 Visitors

		2003(平成15)	2004(平成16)	2005(平成17)	2006(平成18)	2007(平成19)
本館	学生・教職員	355,126	358,585	358,033	361,486	350,163
	学外者	5,845	8,252	8,941	11,001	9,017
	計	360,971	366,837	366,974	372,487	359,180
医学分館	学生・教職員	222,238	210,415	232,813	239,307	144,703
	学外者	584	548	446	535	323
	計	222,822	210,963	233,259	239,842	145,026
合計		583,793	577,800	600,233	612,329	504,206

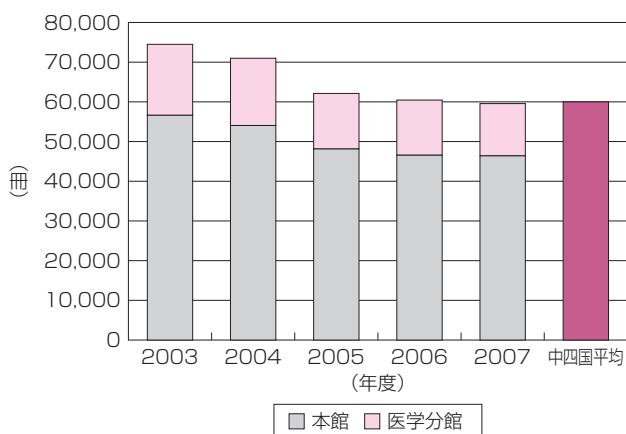
■貸出冊数 Circulations

		2003(平成15)	2004(平成16)	2005(平成17)	2006(平成18)	2007(平成19)
本館	学生	53,497	50,659	44,735	42,022	41,198
	教職員	2,293	2,336	2,425	2,770	3,257
	学外者	869	1,057	1,023	1,820	1,983
	計	56,659	54,052	48,183	46,612	46,438
医学分館	学生	13,785	13,045	10,350	9,469	9,662
	教職員	3,636	3,363	2,736	3,498	2,928
	学外者	415	546	854	879	539
	計	17,836	16,954	13,940	13,846	13,129
合計		74,495	71,006	62,123	60,458	59,567

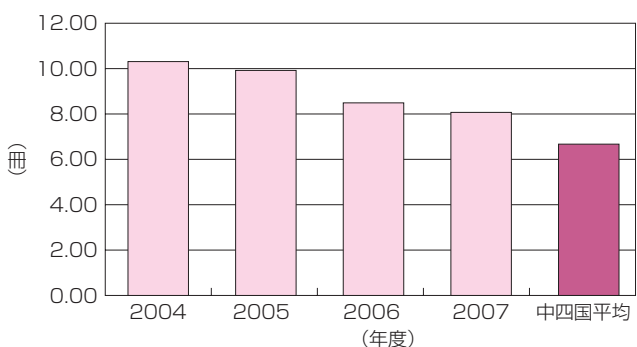
■入館者数の推移



■貸出冊数の推移

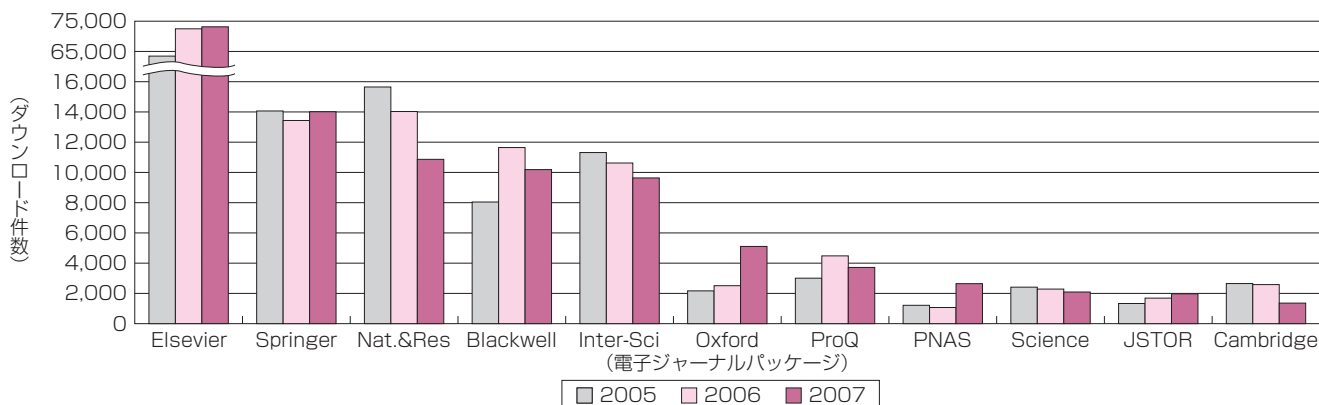


■学生1人当たりの貸出冊数の推移



- ・医学分館の2007(平成19)年度の入館者数の減少は、改修工事のため一時期閉館したことによる。
- ・貸出冊数は、年々減少の傾向にあり、学生1人当たりの貸出冊数が2004(平成16)年度の10冊から、2007(平成19)年度の8冊まで減少していることから、何らかの対策が必要である。

■主要電子ジャーナルの利用状況(ダウンロード件数)



・利用の増減は、電子ジャーナルによりまちまちである。一部減少傾向のものもあるが、認知度が高まるにつれ、全体の利用は伸びる傾向にある。

相互協力 Interlibrary Loan

■文献複写件数 Photocopies

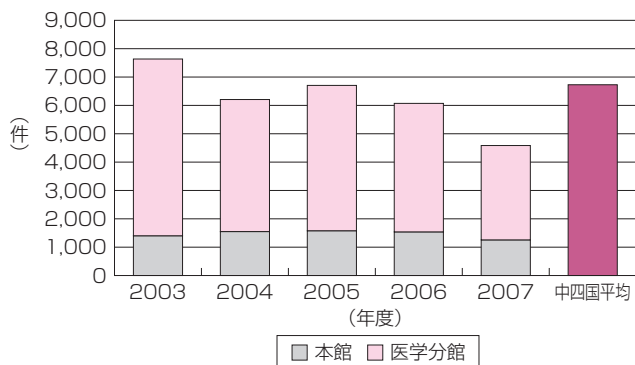
		2003(H15)	2004(H16)	2005(H17)	2006(H18)	2007(H19)
本館	国内受付	1,402	1,550	1,579	1,539	1,263
	国内依頼	4,014	3,069	3,537	3,917	4,018
	海外受付	0	0	0	0	0
	海外依頼	92	72	60	26	16
医学分館	国内受付	6,234	4,665	5,126	4,532	3,328
	国内依頼	5,095	5,251	4,787	3,789	4,062
	海外受付	0	0	0	0	0
	海外依頼	85	33	25	4	5

■現物貸借件数 Interlibrary Loans

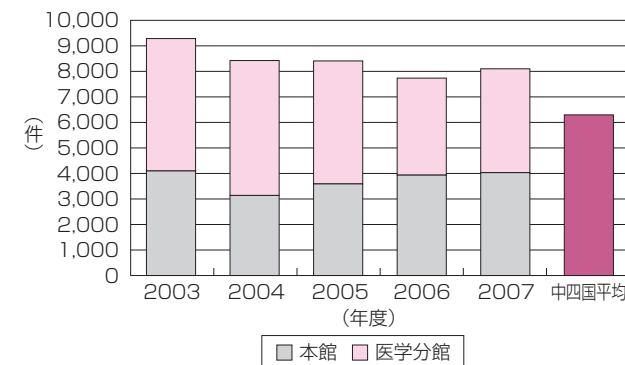
		2003(H15)	2004(H16)	2005(H17)	2006(H18)	2007(H19)
本館	国内貸出	250	235	215	218	224
	国内借受	185	185	237	292	332
医学分館	国内貸出	36	27	24	28	26
	国内借受	19	26	9	14	14

※海外との現物貸借は実施していない

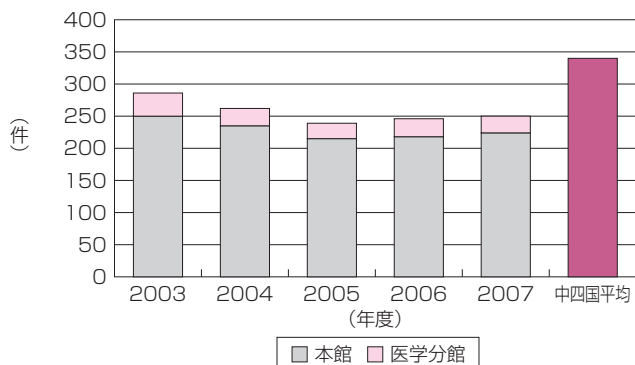
■文献複写受付(提供)件数の推移



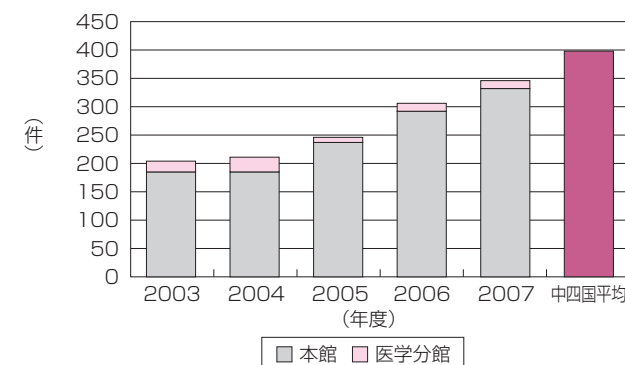
■文献複写依頼(取寄)件数の推移



■現物貸借貸出件数



■現物貸借借受件数



- ・文献複写の受付件数は、他大学でも電子ジャーナル利用環境が向上したため、減少傾向にある。
- ・文献複写の依頼件数は、電子ジャーナル導入により外国雑誌論文の依頼が減少する一方で、和雑誌の論文データベースの利用環境が向上し、和雑誌論文の検索が容易にできるようになったことによる和文献の依頼件数増のため、全体的に横ばい状態である。
- ・現物貸借の借受件数は、本館での伸びが著しい。

図書館日誌

図書館日誌

	全学・松江キャンパス(本館)	出雲キャンパス(医学分館)
4/ 4	記者会見(学術情報リポソトリ・学術情報リテラシー)	
18	第10回学術情報統合組織設置検討委員会	
5/ 9	新任教員図書館ガイダンス	
29	学長表彰(業務省力化及び管理運用業務の合理化に関して 企画・整備グループ)	
6/ 5	附属図書館運営委員会 本館運営専門委員会	
8		医学分館 運営委員会
13	大学評価データベース・学術情報リポソトリ登録説明会	
22		大学評価データベース・学術情報リポソトリ登録説明会
28	国立大学図書館協会賞を受賞(貴重資料展示、講演会・シンポジウム企画及び成果物編集・出版プロジェクトによる情報発信活動に関して)	
7/ 6	学生選書ツアー	
30	附属図書館 運営委員会	
8/ 5		国立新美術館長医学分館を訪問(大森文庫に関して)
16		医学分館運営委員会
9/ 11		島根県医療関係機関等図書館(室)懇談会総会
10/12~14		大森文庫展示会「江戸時代後期、郷土で活躍した医師—不明堂山楽・西山砂保—」
15	附属図書館 運営委員会	
26~28	第3回図書館蔵書リユース市	
11/ 2	デジタル・アーカイブ閲覧システム公開	
3		島根大学附属図書館医学分館、島根県立大学短期大学部出雲キャンパス図書館及び出雲市立図書館の相互協力に関する協定の締結ならびに出雲中央図書館60周年記念事業を共催
15~16		第43回日本医学図書館協会中国・四国地区総会
12/ 2	日本図書館協会中国ブロックの集い/事例報告「大学図書館と地域連携活動」	
11		医学分館 運営委員会
20	附属図書館 運営委員会	
3/ 6		第4回島根県病院図書室セミナー
9~14	3館合同企画 出雲国に伝播した華岡流医術とその時代 企画展示・講演会	
19		「華岡流医術の世界」を出版

年間刊行物(2003-2007<平成15-19>年度)

●2003(平成15)年度

2004(平成16)年 2月 図書館報「沁雲」創刊号 内容:図書館へ行く! ほか

●2004(平成16)年度

2004(平成16)年 4月 図書館報「沁雲」 2号 特集:図書館を使いこなそう!

10月 図書館報「沁雲」 3号 内容:これからの大学図書館 ほか

11月 島根大学附属図書館概要 2004/2005. A4判,29p.

2005(平成17)年 3月 図書館報「沁雲」 4号 内容:こころに残る1冊 -I love books- ほか

●2005(平成17)年度

2005(平成17)年10月 <企画展示・講演会パンフレット> 島根にもたらされた華岡流医術 -大森文庫から見た江戸後期の診療- A4判,8p.

10月 <企画展示・講演会パンフレット> 教育者としての小泉八雲. A4判,8p.

11月 <企画展示・講演会パンフレット> 絵図の世界 -出雲国・隠岐国・桑原文庫の絵図-. A4判,8p.

12月 図書館報「沁雲」 5号 特集:図書館ホームページ解剖図

●2006(平成18)年度

2006(平成18)年 7月 図書館報「沁雲」 6号 内容:電子情報をナビゲートする! ほか

8月 <図書出版> 絵図の世界 -出雲国・隠岐国・桑原文庫の絵図- 島根大学附属図書館編. ワンライン. A4判,149p. ISBN 4-948756-33-4

10月 島根大学附属図書館概要 2006/2007. A4判,20p.

11月 <図書出版> 教育者ラファティオ・ハーンの世界 -小泉八雲の西田千太郎宛自筆書簡を中心に- 島根大学附属図書館編. ワンライン. B5判,495p. ISBN 4-948756-36-9

2007(平成19)年 2月 図書館報「沁雲」 7号 内容:情報リテラシーは大事ラシー ほか

3月 <テキスト共同発行>学術情報リテラシー -情報活用能力の向上のために- 島根大学「学術情報リテラシー」編集委員会. 初版. B5判,135p.

●2007(平成19)年度

2008(平成20)年 1月 図書館報「沁雲」 8号 特集:1 学術情報リポソトリ/特集:2 電子ジャーナル

3月 <企画展示・講演会パンフレット> 出雲の国に伝播した華岡流医術とその時代:大森泰輔・加善の医術と文化的素養. A4判,24p.

3月 <図書出版> 華岡流医術の世界 華岡流医術の世界 -華岡青洲とその門人たちの軌跡- 島根大学附属図書館医学分館編. ワンライン. A4判,272p. ISBN 4-948756-49-6

3月 <テキスト共同発行>学術情報リテラシー -情報活用能力の向上のために- 島根大学「学術情報リテラシー」編集委員会. 第2版. B5判,143p.

新聞で報道された附属図書館 (2005-2007<平成17-19>年度)

■2005(平成17)年度

・展示会「島根にもたらされた華岡流医術」を医学分館にて開催	産経新聞	2005(平成17)年10月5日
・教育者・八雲の人間像に迫る 小泉八雲に関する講演会を開催	毎日新聞	10月10日
・「大坂城絵図」が本館にて発見される	山陰中央新報	11月3日
・初の島根大学図書館蔵書リユース市を開催	山陰中央新報	2006(平成18)年1月16日
	朝日新聞	1月18日

■2006(平成18)年度

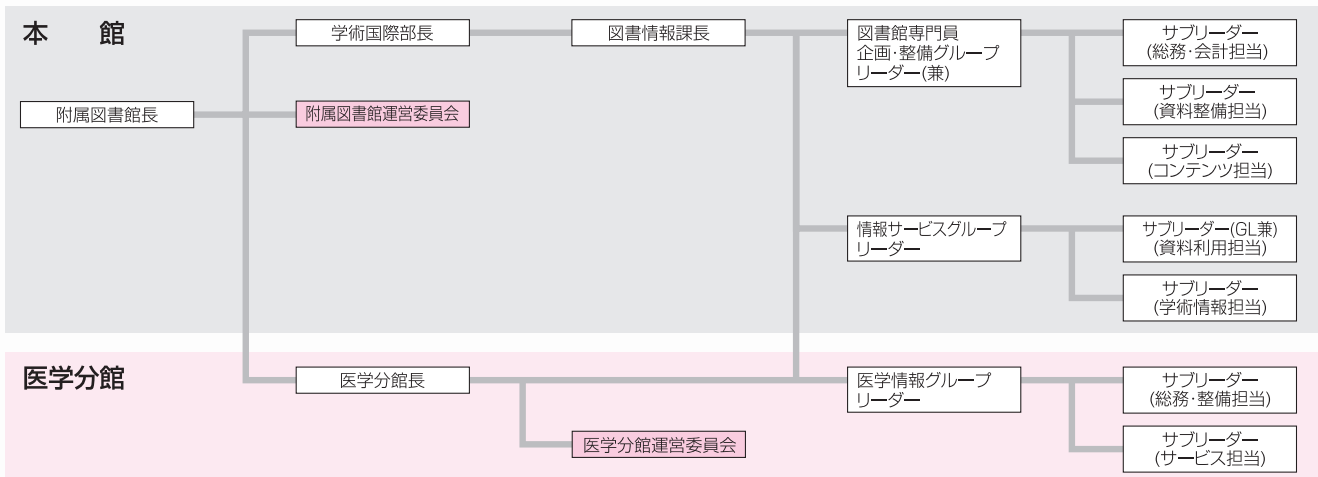
・全国図書館シンポ(斐川町H18.7.9~)で島根大学医学部附属病院の院内図書室「ふらっと」の実践報告	山陰中央新報	2006(平成18)年5月20日
・「教育者・小泉八雲の世界 島根大学附属図書館編」として刊行予定	山陰中央新報	6月24日
・島根大学附属図書館から「絵図の世界」発刊に寄せて 現代図との比較も可能	山陰中央新報	9月29日
・第2回島根大学図書館蔵書リユース市を開催	読売新聞	11月3日
・県立、松江市立図書館と島根大附属図書館が蔵書の相互協定	山陰中央新報	2007(平成19)年2月27日
	読売新聞	3月4日
・『堀尾時代松江城城郭城下図』など島根県指定文化財へ答申	山陰中央新報	3月20日

■2007(平成19)年度

・県内の公共・大学図書館ホームページで横断検索	中国新聞	2007(平成19)年5月14日
・島根大学附属図書館の企画展で小泉八雲の“生涯の友”西田千太郎あてのハーンの書簡を初めて公開	産経新聞	5月22日
・情報発信活動で「国立大学図書館協会賞」を受賞	山陰中央新報	8月24日
・第3回島根大学図書館蔵書リユース市を開催	朝日新聞	10月26日
	山陰中央新報	10月27日
・「華岡流医術の世界:華岡青洲とその門人たちの軌跡」を医学分館が出版	島根日日新聞	2008(平成20)年3月21日
・「華岡流医術の世界:華岡青洲とその門人たちの軌跡」の書評が掲載	山陰中央新報	4月20日

組 織

【2006(平成18)年4月改正】



人事異動

【2007(平成19)年4月1日発令】

氏名	異動後	異動前
平川 正人	附属図書館長(兼職)	総合理工学部教授
坂本 英治	財務部経理・調達課調達室係長(配置転換)	学術国際部図書情報課係長
品川 祐治	学術国際部図書情報課(係長昇任・採用<転入>)	松江工業高等専門学校総務課会計室用度係用度主任
飯田 啓子	学術国際部図書情報課係長(出雲)(配置転換)	学術国際部図書情報課係長
吉井 紀子	学術国際部図書情報課係長(配置転換)	学術国際部図書情報課係長(出雲)
福山 栄作	学術国際部図書情報課係長(昇任)	学術国際部図書情報課主任

【2008(平成20)年3月31日発令】

氏名	異動後	異動前
塩川 銀三	定年退職	学術国際部図書情報課長
松本 律子	退職	学術国際部図書情報課事務補佐員

SHIMANE
UNIVERSITY
LIBRARY
Annual Report
2007

島根大学附属図書館年報 2007

2008年(平成20年)7月発行

発行：島根大学附属図書館

本館／〒690-8504 松江市西川津町1060
TEL (0852) 32-6083 FAX 32-6089
医学分館／〒693-8501 出雲市塩冶町89-1
TEL (0853) 20-2004 FAX 20-2095

<http://www.lib.shimane-u.ac.jp/>



島根大学
SHIMANE UNIVERSITY